



立教大学キリスト教学会 2014 年度大会



日 時： 2014年 5月31日(土) 13時30分～17時00分

場 所： 太刀川記念館3階 多目的ホール (立教大学池袋キャンパス)



受 付 (13:00～)

研究発表 (13:30～14:30)

1. 「C.H.H. パリーのオルガン・コラール前奏曲とその背景

—聖歌集 *Hymns Ancient and Modern* と英国オルガンの発展—

発表者：近藤 望 (本学大学院キリスト教学研究科博士課程前期課程

キリスト教学研究コース修了)

2. 「『上帝』か『神』か

—19世紀プロテスタント聖書の漢訳過程にみる用語論争の歴史的考察—

発表者：黄イエレム (本学大学院キリスト教学研究科博士課程前期課程

キリスト教学研究コース修了)

ティータイム (14:30～15:00)

講 演 (15:00～16:30)

「アウグスティヌスの『告白』の物語り性について

—はじめとおわり、生と死の視点からの考察—」

阿部 善彦 (本学文学部キリスト教学科准教授)

総 会 (16:30～17:00)

来聴無料・申込不要

(どなたでもご参加いただけます。お気軽にご来場ください)

お問い合わせ：立教大学キリスト教学会事務局

(TEL 03-3985-4779)まで

<講演者紹介>

阿部 善彦 (ABE, Yoshihiko)

上智大学文学部哲学科卒業。同大学大学院哲学研究科哲学専攻博士前期課程および博士後期課程を修了。2011年に上智大学で博士(哲学)学位を取得。

日本学術振興会特別研究員PD、ルーヴェン・カトリック大学(ベルギー)神学部客員研究員、上智大学文学部・早稲田大学教育学部・国士舘大学文学部・中央大学文学部などの非常勤講師を経て、2014年4月1日、立教大学文学部キリスト教学科に着任。

中世ヨーロッパのキリスト教思想史および教会史を専門としており、これまでは特に、13~14世紀のドイツ神秘思想の研究に取り組んできた。現在は4世紀の教父(アウグスティヌスなど)から16世紀の宗教改革前後(ルターなど)に及ぶ、中世から近世のキリスト教を、神学者、哲学者だけでなく、民衆・一般信徒、女性たちの信仰理解を視野に入れ、研究を深めている。

《会場案内図》

